

6. 入札書記載金額について

- (1) 金額及び金額内訳表については、下記記載要領を参照のうえ記載すること。なお、金額（A）欄には総額を記載することとし、積算に誤りがある場合には、カラーの単価（B）及びモノクロの単価（C）が正しいものとして、各単価にそれぞれの使用予定数量を乗じた額の合計額をもって、入札されたもの（入札書記載金額）とみなす。
- (2) 落札決定にあたっては、「入札書記載金額」に当該金額の100分の10に相当する額を加算した金額（加算した金額に1円未満の端数があるときは、その端数を切り捨てた額）をもって落札金額とするので、入札者は、消費税及び地方消費税にかかる課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積もった契約希望金額の110分の100に相当する金額を入札書に記載すること。
- (3) 金額の頭に¥を記載すること。

7. その他

- (1) 落札者又は契約の相手方に決定されたときは、遅滞なく契約締結の手続きを行うこと。
- (2) 入札保証金の納付を免除された者が、落札決定後、正当な理由がなく指定期限までに契約を締結しないときは契約規則第21条第2項により落札金額(入札書に記載された金額に当該金額の100分の10に相当する額を加算した金額(単価契約にあつては、落札金額に予定数量を乗じた額、長期継続契約にあつては、落札金額を1年当たりの額に換算した額(契約期間が12月未満の場合は、履行期間内に支払うことが見込まれる総額)))の100分の3に相当する額の違約金を徴収する。
- (3) 提出済みの入札書の書き換え、引き換え又は撤回をすることはできない。
- (4) 入札書への記名押印は、個人については本人が、法人については代表者が、又はそれぞれの委任状を提出し確認を受けた代理人が行うこと。
- (5) この入札において独占禁止法第3条又は第8条第1項第1号に違反し、若しくは、刑法第96条の6に該当する談合などが明らかになった場合は、契約者は契約金額を1年あたりの額に換算した額の最低100分の20に相当する額の損害賠償金を納付しなければならない。
- (6) 契約締結までに、落札者が大阪市契約関係暴力団排除措置要綱に基づく入札等除外措置を受けたときは、契約締結を行わないものとする。

【金額及び金額内訳表 記載要領】

※各単価に使用予定数量を乗じ合計した総額を記載すること

金額 (税抜き)			百万		A	千			円
-------------	--	--	----	--	---	---	--	--	---

(金額内訳表)

複合機	種別	使用予定数量 (60ヶ月)	単価 (税抜き)	合価 (使用予定数量×単価) ※小数点以下の端数は切り捨てる。
カラー複合機	カラー	120,000	B	D
	モノクロ	2,784,000	C	E
合 計				F

※網掛け部分を次の要領で記載してください。

A	F と同額を記載
B	カラー単価を記載（税抜き）
C	モノクロ単価を記載（税抜き）
D	$B \times 120,000$ 枚の合計額を記載（小数点以下は切り捨て）
E	$C \times 2,784,000$ 枚の合計額を記載（小数点以下は切り捨て）
F	$D + E$ の合計額を記載